

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびねす		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	日頃からLINEだけのやりとりだけではなく、電話や送迎時などに保護者様とコミュニケーションを取る回数を増やしている。保護者様が不安を抱えていたり、相談をしたい様子ときには面談も行っている	今後も連絡には、タイムリーに返信することと漏れがないように丁寧に対応をしていくこと、小さな変化にもきづき共有をしあっていく。
2	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	月に一回茶話会を開催し、多くの方に参加していただき保護者様同士の交流の場を作っている	同じ悩みを抱えているからこそしか話せないことがあるとよく言ってもらえるため、今後も多くの保護者様が参加しやすい場になるように環境を整え、周知していく
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	お子様の課題や支援計画に合わせて、工作(微細運動)を取り入れたり、モンテッソーリー玩具を使って紐通しやボタンの付ける練習を取り入れたりプログラムを変えている。また社内の放課後等デイサービスの運動療育を見守り発達用にかえる等、社内共有を密に行う事で空きの来ない様々なメニューを提供できる。	外部研修の受講や、各専門職種からの意見を取り入れ、お子様の発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせ実施が出来るようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	事業所の敷地面積が狭い	スペースが広く出来るような新しい物件を見つけ次第、移転をしていくことを考えて動いている。公園活動やグループに分けて広く保てるように療育活動を行っていく。
2	「生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達「の活動に合わせた空間となっているか。	部屋が大きく一人しかない為、ご飯を食べてる場所・遊び場所・昼寝をしている場所が同じになり、昼寝をしている子供の近くで遊んでいる子供がいるなど空間を分けることが出来ない	スペースが広く出来るような新しい物件を見つけ次第、移転をしていくことを考えて動いている。公園活動やグループに分けて広く保てるように療育活動を行っていく。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域で他の子どもと活動する機会について、十分に実施できていない。	子どもの特性や安全面への配慮、感染症対策等により、地域施設との交流機会を積極的に設けることが難しい状況があった。	今後は、子どもの状況や安全面に十分配慮しながら、地域の保育所や幼稚園、公共施設等との交流の機会について検討していく。また、地域行事への参加や地域施設の利用など、無理のない形で地域との関わりを持つ機会を検討する。